

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270201967		
法人名	有限会社 ユニ		
事業所名	グループホームパール針尾		
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市針尾東町2162-1 (電話)0956-58-4801		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年10月9日	評価確定日	平成 19年 12月 11日

## 【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.1	

### (2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

### (4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	6 名	要介護2	7 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82.2 歳	最低 69 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 針尾診療所 ・ 松永歯科診療所
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの玄関に1歩入ると、職員、ご利用者の方々の笑顔に迎えられ、ご利用者が作った小物がセンス良く飾られているリビングがあり、心がほっと安らぐホームとなっている。毎朝、職員がその日の新聞をご利用者の前で読み、その内容について皆で意見交換する。平成16年以来、毎日毎日の生活の中でご利用者と一緒作り上げてきた日課がそこにはある。皆で意見交換をしていくうちに自然に話題もふくらみ、いつの間にか笑い声に変わっていく。職員みずから楽しく笑っていることこそが、何よりご利用者の笑顔につながると職員も考えており、ご利用者の笑顔につながると思われる取り組みに対しては努力を惜しまない姿勢が見られる。その職員の気持ちを管理者の方が良く聴き、ご利用者の気持ちを職員が良く聴き、ご利用者同士の助け合いも自然に生まれてきており、一つの大きな家族になってきている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の中で、地域との交流が今後の取り組み課題であがっていたが、今年1月から、自治会の定例会に毎月参加するようになり、6月からは地域の草刈作業に参加するなど、改善に向けた取り組みを前向きにおこなっている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者より、評価の意義について職員に説明をおこなった。各職員に自己評価票を一人ひとり記入してもらい、その後、職員全員で一つにまとめていった。職員から、たくさんの意見が聞かれたが、自己評価をおこなう期間が短かったため、来年度はもっと早くに取り組みをし、今後、さらに取り組んでいきたい内容をじっくり時間をかけて考えていきたいと思っている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 次回の運営推進会議の議題に関する資料をあらかじめ配布したり、開催時間等の希望を聞くなど、積極的に参加していただく取り組みをおこなっている。会議の中で「ホームの夏祭りで綿菓子を作ったら喜ばれるのでは」という意見をいただき、さっそく綿菓子機を借りご利用者も喜ばれる結果となった。委員の方から「このホームが地域にとって何が出来るか(災害時も含めて)を、きちんとした形にして残しておくべきではないか」と言う意見をいただき、今後、この事に真剣に受け止め、取り組みをしていきたいと考えている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族が来訪時には職員の方から声かけをするとともに、運営推進会議の場、家族会、敬老会、総会などでも、ご家族の意見を伺う場を作っている。ご家族からいただいた意見は、記録に残し、その都度職員に伝え、会議で話し合っている。また、行事があった時に、写真を多くのお便りを作成し郵送している。暮らしぶり、健康状態に関しては、何か変化があった時は、面会時や電話に報告しているが、今後は、ご家族の個々の知りたいことを把握していき、より個別に報告ができるよう取り組んでいきたいと考えている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入しており、お祭りや運動会、バザーなどには以前より参加していたが、平成19年1月からは、毎月おこなわれる定例会にも参加するようになり、6月は初めて地域の草刈作業にも参加した。小学生が公民館で宿泊体験をする行事があるが、その時にお風呂を提供する活動をしたり、中学生の体験学習も受けいれている。定例会に参加することで、地域の方から行事へのお誘いも増えてきているが、職員が中心に参加している状況である。今後は、もっとご利用者と一緒に参加できるように取り組んでいきたいと考えている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり・一緒に・楽しく」という理念は、開設当初に当時の施設長を中心に作った理念である。‘一緒に’という言葉には、地域の方も一緒にという思いがこめられている。18年4月、地域密着型サービスになるにあたり、さらに意識して、地域に出て行こうと職員で話しあいもした。	○	今後、もう一度、地域密着の視点を意識して、理念の一つ一つの言葉を見つめなおし、そこに意味されていることを、自分たちの言葉で考えていきたいと考えている。職員全員で、新たな理念を作り上げていかれることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、全職員理解できている。一つのユニットは会議のとき、朝礼のとき、介護の現場で、理念に通じることを管理者が伝えており、日々実践できている。もう一つのユニットは、主に介護の現場で理念を伝えており、日々の取り組みの中で、ご利用者を急がせたりする場面が時に見られ、「ゆっくり」と言う言葉をお互いに注意しあっている。	○	とてもわかりやすい理念なので、例えば、朝の朝礼や体操の後など、全職員、ご利用者で唱和するなどの取り組みをしてみたいかと思う。今後、職員全員で理念の内容について検討していく予定もあり、日々、理念を意識することで、日々のケアの中で、理念にそったケアが実践されていくことを期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、お祭りや運動会、バザーなどには以前より参加していたが、今年の1月から、毎月おこなわれる定例会にも参加するようになり、6月は初めて地域の草刈作業にも参加した。小学生が公民館で宿泊体験をする行事があるが、その時にお風呂を提供する活動をしたり、中学生の体験学習も受けいれている。	○	定例会に参加することで、地域の方から行事へのお誘いも増えてきているが、職員が中心に参加している状況である。今後は、もっとご利用者も一緒に参加できるように取り組んでいきたいと考えている。運営推進会議も活用して、ご利用者、職員とともに、今後の更なる地域の方々との交流に向けた活動が行えていくことを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者より、評価の意義について職員に説明をおこなった。各職員に自己評価票を一人ひとり記入してもらい、その後、職員全員で一つにまとめていったが、もっと早くに取り組みをし、今後、さらに取り組んでいきたい内容をじっくり考えていきたいと思っている。また、前回の外部評価の中で、地域との交流が、今後の取り組み課題であったが、今年の1月に、自治会の定例会に参加するなど、改善に向けた取り組みを前向きにおこなっている。	○	今年度の自己評価、外部評価の結果の検討とともに、来年度、いつ頃、職員一人ひとりが自己評価に取り組み、それをまとめていく時期はいつ頃にするかなどを、早めに計画していくことで、余裕をもった自己評価への取り組みになっていくと思われる。日々、取り組んでいることを全員で評価することで、取り組んでいることの再確認ができることとともに新たな課題を見つけていける場になると思われ、来年度に向けた取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	18年度末に、市のほうから運営推進会議の取り組みに向けた説明会があり、19年5月によく第1回目をおこなうことができた。次回の議題に関する資料を、あらかじめ配布したり、当日欠席だった委員の方には、報告書や資料を郵送することで、積極的に参加していただく取り組みをおこなっている。会議の中で、「ホームの夏祭りで綿菓子を作ったら喜ばれるのでは？」という意見をいただき、さっそく綿菓子機を借りご利用者も喜ばれる結果となった。	○	現在、ご家族、民生委員、地区長、地域包括支援センターの職員、ホームの職員が参加しているが、今後はご利用者も参加しやすい環境を作り、メンバーにご利用者を入れていかれると良いのではないだろうか。また、委員の方から「このホームが地域にとって何ができるか(災害時も含めて)を、きちんとした形にして残しておくべきではないか」という意見をいただき、今後、この事も真剣に受け止め、取り組みをしていきたいと考えている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者へは、相談、報告は今まで積極的におこなっていない。一度、電話で、ご利用者のことを相談したが、まだ結果はいただけておらず検討中の状態である。地域包括支援センターの方とは、運営推進会議を通していろいろと相談できるようになっている。	○	今後、市への訪問を増やしていくことで、市の担当の方にも、ホームの現状をより理解いただき、何か課題があった場合は、お互いにサービスの質の向上に向けたアドバイスをいただくことができるようになることを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事があった時に、写真を多く載せたお便りを作成し郵送している。暮らしぶり、健康状態に関しては、日々、ご家族が来訪時に個別に伝えるとともに、何か変化があった時は、面会時や電話にて報告している。金銭管理は、現金と出納帳を見ていただきサインをしていただき、遠方の方には通帳のコピーを郵送している。	○	今後は、個別にご家族が気になっていることが何かを把握するとともに、日々の何気ない暮らしぶりや、特に変化が無くとも健康状態が変わらないことなどをもっと細やかに報告していくことで、ご家族もさらなる安心につながっていくと思われる。毎月のホーム便りの作成も検討されており、各担当者が一言コメントを手書きなどされていくと、より個別な報告になるのではないだろうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満などは、積極的に聞いていきたいと考えている。面会時には声かけをするとともに、運営推進会議の場、家族会の場、敬老会、総会などでも、ご家族の意見を伺う場を作っている。ご家族からいただいた意見は、記録に残し、その都度職員に伝え、会議で話し合っているが、ご家族の意見をもっと聞いていきたいと考えている。	○	ご家族は、苦情をホームに言いにくいと思うので、今後、より蜜に、そして個別に、ご家族の気持ちを聞いていきたいと考えている。面会時の声かけを、さらに職員が意識し、ご家族との心の交流を深めていきたいと考えている。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、人事面も含めて管理者に任せている状況だが、給与面の相談にのってくださったり、職員が働きやすい環境への配慮をしている。管理者は、職員の個人面談をおこなない、悩みを聴取したり、夜勤の回数、勤務変更などに柔軟に対応している。お誕生日に有給休暇がとれるような取り組みもしている。管理者、職員間含めて、話しやすい関係ができており、離職者も少ない。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員が研修を受講できるよう、受講費用、日当、交通費などの支援をしてくれている。ホーム内では、月に1回、病気に関する勉強会をしたり、研修に参加した職員が、伝達研修などをおこなっている。管理者、リーダーなどが、職員育成のための助言者として配置されており、働きながらの職員育成も取り組んでいるが、職員ごとの育成計画までは作成していない。	○	まず、現場を良く把握できている管理者がそれぞれの職員の能力などを確認し、個々の職員に応じた育成のための計画案を作り、運営者に報告、相談していくなどのシステムができていくことを期待したい。個々の職員の実績も確認し、一緒に検討していくのも良いと思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者と交流することに関し理解をしているが、具体的方針などを話し合うまではしていない。ホームとして、協議会に参加し、研修会、事例検討、相互訪問、電話などでの情報交換もおこなっている。研修には職員も参加できているが、ブロック会議は管理者が参加しており、職員は参加していない。	○	今後、運営者とともに、同業者との取り組みの現状や具体的方針を話し合っていきたいと考えている。また、ブロック会議の場がホームの情報交換やアドバイスをもらえる場でもあるので、管理者とともに職員も参加できるようにしていきたいと考えている。より多くの職員が参加しネットワーク作りをおこなうことで、サービスの質の向上につながっていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的に、ご利用者が安心して、納得したうえで、入居ができることを大切にしている。ご家族から、入居に関する説明を、ご利用者にしていただくとともに、入居開始前に、生活している場所に訪問したり、見学に来ていただくことで、顔なじみの関係を作っている。入居後は、ご家族の方などが、頻りに面会にきていただき、安心した生活になっていくよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者の喜怒哀楽に関わる内容を、ご家族にも確認し、日々の生活の中で個別の会話にも配慮を行っている。縫い物、料理の仕方を教えていただいたり、職員が腰や肩の痛みを訴えると、肩をもんでくださりツボの場所を教えていただくこともある。物の考え方も教えてくださり、職員は勉強になっている。励ましの言葉を、ご利用者からいただくことも多く、家族のような関係で、お互い支えあいながら過ごす事ができている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	長くホームで生活されている方が多く、生活歴、現在の状況、そして、どのように生活していきたいかを、全員把握できている。「家に帰りたい」という希望の方がおられ、歩くことができれば外出を含め帰宅することが可能ということで、車いすだった方が、リハビリを頑張り、支え歩行が可能になり、帰宅するという希望をかなえることができた。意思疎通が難しいかたも、表情や行動から、お気持ちを推察し、生活歴と合わせてご家族とも相談しながら、本人本位に検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族、職員やかかりつけ医も含めて、それぞれの方と話し合いながらご利用者主体の介護計画を作成している。ご利用者にとってもわかりやすい表現で作成できおり、ご利用者への尊厳ある気持ちが表現からも伝わってくる介護計画である。ケアの標準化にもつながるよう介護の手順も記載されている、日々のケアの実践に活かせる介護計画となっている。	○	「地域で暮らす」と言う視点を盛り込み、介護計画が作成されている方もおられるが、まだ十分に盛り込まれていない方もおられる。日々の生活の中では、外出支援を含めて支援できている方も多く、その部分が、さらに介護計画の中に追加されていかれると良いのではないだろうか。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご利用者とは、日々の生活の中で希望を確認し、ご家族とは、月に1~2回、面会に来られたときなどに、介護への希望など意見を聞いている。職員同士は、毎日の申し送りのときに、新たな変化や気づきがないか確認をしあっており、現状に即した介護計画の見直しをおこなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が十分に取れていることで、ご利用者、ご家族とも安心につながっている。夜中も医師と連絡を取ることができ、毎週、往診に来てくださることで、早期発見、早期報告・相談、早期治療につながっている。入院時も頻りに管理者等が面会に行き、医師、看護師との情報交換ができており、早期退院に結びついている。個々のご利用者の希望に応じて、喫茶店や外食に同行するなど、個別の柔軟な対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、希望を確認し、以前からのかかりつけ医に受療されている方もおられる。また、ご利用者、ご家族の同意のもと、ホームの協力医療機関で受療いただいている方もおられる。かかりつけ医には、往診時含めて、いろいろと相談することができ、アドバイスをいただいている。かかりつけ医が庭の畑で野菜作りをされており、収穫できた野菜、野菜の苗を差し入れして下さることもあり、良い信頼関係を築けている。職員が通院介助するが、通院の結果は、すべてご家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご利用者個々の病状や終末期への要望に応じて、医療の必要性をかかりつけ医と相談し、ホーム内でどこまで対応できるかを検討していくという方針である。ただ、現在、ホーム内に看護師がいないため、入浴時の介助が全介助になるなど、重度化した場合は、特別養護老人ホームなどへの生活を検討いただくことを入居時にご家族又はご利用者には伝えている。	○	今後、さらに終末期に対する意向を、ご利用者やご家族に確認をしていきたいと考えており、ホームの方針と合わせて、関係者全員で話し合える環境ができていくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員、ご利用者への声かけ、対応含めて、尊厳の気持ちをもって日々対応しているが、親しみのつもりで使用している方言が、目上の方に対して使用する方言ではないときなどがあり、その都度、お互いに注意をしている。個人情報保護法の理解や、書類の取り扱いなどは徹底して実施できている。	○	今後も、職員一人一人が、ご利用者への言動を見つめなおし、さらなる尊厳ある対応をしていきたいと考えている。勉強会などで、方言を含めた言葉の持つ意味、使い方を全員で勉強されていかれてはいいだろうか。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの生活が長い方もおられ、日々の暮らしは、ご利用者個々のペースの暮らしになってきている。朝10時のお茶の時間に「今日は何をしたいですか?」と希望を確認したり、お掃除のため職員が部屋に入ったときに、個別に希望を確認し、外出、買い物など希望をかなえられるように職員も配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員、ご利用者含めて、全員で楽しく食事をしている。毎月1日には、お赤飯を炊いたり、その日に使う食材は、ご利用者と一緒に畑に収穫に行っている。ピーマン、おくら、なす、にがうりなど旬の食材を使った料理を、ご利用者と一緒に料理をしている。テーブル拭き、食器洗いなど、それぞれのご利用者の力に応じて、日々おこなっていただいている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	菖蒲湯、ゆず湯など、季節に応じたお風呂に入れるよう配慮したり、足湯に出かけてみたりと、入浴を楽しむ工夫をおこなっている。入浴の順番、シャンプーの好みなど、個別に合わせた対応もおこなっている。羞恥心への配慮のため、同姓介助の実施とともに、安全に配慮しながらも、羞恥心に対するご利用者の心理を推察し、洗身時は職員が浴室から出るなど個別の対応もおこなっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴、趣味を把握し、ホームの中でも、その力が発揮できるようにしている。職員や、ご利用者同士のお喋りを楽しまれる方、歌を歌われる方、職員の肩をマッサージしてくださる方、家事を役割としてくださる方など、それぞれの楽しみ、役割ができるよう支援している。ホームでの生活が長くなり、ご利用者同士の助け合いも日々見られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前外出していた場所を把握し、馴染みの美容院、喫茶店、お寿司屋など、希望に沿った外出ができるよう支援している。車いすの方も、なるべくホーム内だけでなく、玄関先で日なたぼっこをしたり、ドライブに出かけられるよう努めているが、もっと外出の回数を増やしていきたいと考えている。	○	現在、ホームで使用できる車が軽自動車のみで、どうしても車いすを使用している方の外出回数が少なくなっている。今後、レンタカーなどを借りたり、もう少し大きな車を手配できるよう、全員で検討していきたいと考えている。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜9時から朝の5時までは、防犯上施錠しているが、それ以外の時間は鍵を開けており、ご利用者も、自由に玄関の外に出て気分転換をしている。職員は、さりげなく見守りをおこない、ご利用者の外出の傾向も把握し、安全の配慮もできている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の中に、別の地域の消防団に入っている方がおり、平成18年11月と平成19年3月、火災時や夜間を想定した訓練をおこなっている。全職員、ご利用者も参加しているが、今後、地域の消防団の方との訓練も検討中である。	○	今後、地域の消防団との打ち合わせをおこなっていくとともに、災害に備えた備品等の準備もおこなっていききたいと考えている。また、昨年1回、地震を経験しており、今後、地震対策のためのマニュアル作成をおこなうとともに訓練もおこなっていききたいと考えている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人ひとりの食に対する好み、馴染みのものを把握できている。ご飯が食べられないときは、おにぎりにしたり、肉を魚に変えたり、味付けを変えるなど、個々のご利用者が美味しく食べられるよう、個別に応じた対応をしている。飲水量、食事量ともに把握し、記録をしており、飲水拒否の方には、ゼリーやジュースを活用し、水分量の確保をしている。	○	栄養の偏りを防ぐために、定期的に体重測定・血液測定の結果に基づいた医師からのアドバイスをいただいているが、今後、市の栄養士などにも相談し、栄養バランスなどに関するアドバイスをいただけることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間や食堂には、ご利用者が作成した小物が飾られている。いつも、花を飾り季節感を取り入れるよう配慮している。民生委員の方などが来られたときは、居間などの様子を見ていただき、感想を聞かせていただいている。気になる大きな物音もなく、すだれを活用し光の調整もおこなっている。テーブル、ソファの配置も、ご利用者が過ごしやすいようご利用者の視点で配置をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、ご利用者が自分で考えて飾り付けをし、ご家族も、自宅にあったお人形や、写真など、ご利用者が居心地良く過ごせるよう考えて、持参していただいている。ホームでの生活が長く、それぞれの好みのお部屋になってきている。		